

社団法人日本喫煙具協会における
ライターに関する消費者広報に
ついて



進む、CR機能付ライターの導入。
しかし、いちばんの解決策は
“子どもにライターを触らせないこと”。

子どものちからでは押せないよう着火スイッチを重くしたり、ストッパー等の安全装置を組み込んだ、CR(チャイルド・レジスタンス)機能付ライターをご存知でしょうか。

日本喫煙具協会では、会員事業者呼び掛け、子どもが簡単に使用することができないCR機能付きのライターの導入を進めています。

しかし、CR機能付きのライターは事故防止のための対策の一つでしかありません。

最も重要で効果的な対策は、“子どもにライターを触らせないこと”です。

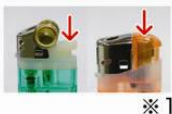
大切なご家族を守るために、ご家庭でのライターの取り扱いや保管にご注意をお願いします。



使い捨てライター(ガスが残っている場合は)、
正しく捨ててください。



1. 周囲に火の気が無いことを確認する。
2. 操作レバーを押し下げる。着火した場合はすぐに吹き消す。※1
3. 輪ゴムや粘着力の強いテープで、押し下げたままの状態ですレバーを固定する。※2
4. 「シュー」という音が聞こえれば、ガスが噴出している。(聞こえない場合は、炎調整レバーをプラス方向にいっぱいに動かす)
5. この状態のまま付近に火の気がない、風通しのよい屋外に半日から1日放置する。(子供が触れられない場所に配慮する)
6. 念のために着火操作をして、火が着かなければ、ガス抜きは完了。
7. ガス抜きを済ませたライターは、各自治体が定めた方法で廃棄する。



社団法人 日本喫煙具協会

〒111-0042 東京都台東区寿3-19-5 TEL.03-3845-6121 <http://www.jsaca.or.jp/lighter>

子どもを火から
守れるのは、
おとなだけです。

ライター安全大使
佐藤弘道



ライター火遊び事故から、
子どもを守りましょう。

ライター火遊び事故・撲滅マニュアル



社団法人 日本喫煙具協会

<http://www.jsaca.or.jp/lighter>

ライター火遊び事故から、
子どもを守りましょう。

子どもを守る、ライター4か条



1 子どもの手の届くところに、ライターを置かない。

子どものライター遊びが原因とみられる痛ましい火災事故が相次いでいます。おとながライターの保管に十分に気をつけることが、いちばんの事故防止策です。できれば、幼い子どもだけを車や家に置いていくことも極力避けてください。さらに、ライターは正しく処分し、通学路や公園など子どものいる公共の場所で、絶対にライターを投棄しないでください。



3 ライターの火遊びを見たら、すぐに注意してやめさせる。

子どもは、すぐにおとなの真似をしたがりです。おとなが使うライターや火そのものに興味を持ち、ライターを使って子どもだけで火遊びをする例が多く見られます。子どもを危険な目に遭わせないためには、社会全体で注意するという取組みが欠かせません。子どもの火遊びを発見したら、すぐにやめさせ、強く注意してください。



2 子どもにライターを触らせない、点火させない。

子どもは元来、好奇心旺盛です。火を点ける器具という認識がないままライターを着火して、火傷するケースがあとを絶ちません。日頃から、子どもにはライターを触らせない、ライターで遊ばせない、という習慣をまず家庭で徹底させましょう。



4 理解できる年齢になったら、子どもに火の怖さを教える。

火は生活に欠くことのできない大切なものですが、取り扱いをひとつ間違うと大変な危険をもたらします。家庭や学校、地域社会において、火遊びの危険性や火の適切な取り扱いについてしっかりと子どもたちに教えることが重要です。

